

傘カバースタンド

上智大学 立原誠也, 伊藤優介, 臼井恭介, 欧陽奕奕

背景・目的

教室内では傘の置き場所がない

傘を床に置いたり、柄を机にかけたりしている人が多いのが現状である。しかし、床が濡れることで滑ったり、衣服等が濡れてしまったり、傘が障害物となったりする。



危険・不快

- 水滴を外に逃がさない
- 机に取り付け、自立可能
- 持ち運び可能

これらを満たす製品の提案

思考展開図



- 水滴を逃がさないために傘カバーとした。
- カバーはコンパクトに収納できるように伸縮機能を搭載。
- クリップで机や椅子に取り付けることを想定し、傷つけないようにラバーパッドを使用。
- 傘を自立させるために、カバー底部には滑り止めとしてラバーパッドを採用。
- カバー内にたまった水を捨てられるようにカバー底部はキャップにより開閉が可能。

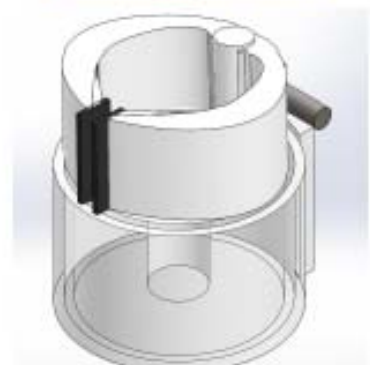
製品イメージ



展開状態(使用時)



収納状態(収納時)



【使用時】 クリップを用いて机や椅子に取り付け、展開されたカバーに傘を入れて使用する。カバー部はコンパクトに収納できるようにスライド式の伸縮機能を搭載させた。カバーの底部は床と接することを想定し、滑り止めとしてラバーパッドを取り付けている。また、中に溜まった雨水を排出するために、カバー底部はキャップになっている。そして、机や椅子など様々な形状に取り付けられるようにクリップを搭載し、ジョイントによって角度を変化できるようにした。クリップ先端は机等を傷つけないようにラバーパッドを使用した。

【収納時】 カバー部とクリップ部を折りたたむことでコンパクトになり、持ち運び可能となる。

結論

最大要求機能(「教室内で荷物、服をぬらさず、傘を所有者の近くで安全に立てる」)を満たす新しい傘カバーを提案した。提案した傘カバーは回転するクリップが取り付けられているので、教室内の机や椅子のみならずあらゆるものに取り付けることができ、汎用性が高い設計となっている。